

<p>会報</p> <p>第79号</p>	<p>Mt. Iwaki Conservation Association</p> <p>岩木山を考える</p>	<p>2019年9月26日発行</p> <p>岩木山を考える会</p> <p>会長 小堀英憲</p>
-----------------------	---	--

第40回東北自然保護の集い

テーマ 《 東北の自然保護 40 年を総括する 》

- ・日時 2019年10月26・27日(土、日)
- ・場所 花巻市大沢温泉湯治屋
- ・日程 26日 12:30 ~ 受付 / 13:00 ~ 各県からの報告
15:30 ~ 分科会
27日 8:30 ~ 分科会の報告・全体会議 / 11:30 終了・解散
- ・参加費 : 7000円(学生は5000円)
- ・分科会は以下のA~Cに分かれて行われます。申込時に、参加したい第1希望と第2希望をお知らせください
 - A: 自然再生エネルギーと自然保護・・・五葉山自然倶楽部森の文化塾:中嶋敬治
 - B: 野生動物とどうつきあうか・・・・・・・・・・岩手大学3年:小室芽依&小林理乃
 - C: 外国人観光客への対応・・・・・・・・・・岩手県自然保護団体協議会:望月達也

※交通費、参加費の一部に会からの補助が出ます。

申込締切 10月10日(木)

申込先 小堀英憲 36-4205(FAX,TEL)

第4回講座 岩木山石切沢周辺散策とキノコ汁

ブナ林の黄葉が始まり、津軽地方の秋は次第に深まっています。岩木山を考える会では、百沢スキー場下の石切沢周辺の山野草や木々の果実を観て、森林浴に癒されながら散策した後、秋の味覚キノコ汁を味わう観察会を企画しました。皆様お誘いあわせのうえご参加ください。

期 日 10月5日(土) 10時~14時

集合場所 百沢スキー場駐車場(下側)10時集合

持ち物 雨具・長靴または登山靴、ごはん(昼食)

参加費 500円(保険代・きのこ汁代)

申込み 竹浪 純 電話 070-6952-2614

申込締切日 10月2日(水)

第5回岩木山講座「堰堤で渡り鳥と岩木山を見る」

昨年に続き今年の堰堤での観察会を企画いたしました。

美しい岩木山を見るのはもちろんですが、この時期堰堤にはガンやカモの冬鳥が渡りの中継地としてたくさん集まって来ます。今年も日本野鳥の会弘前支部の方が望遠鏡持参で案内してくれますので、普段気付かない鳥たちの魅力に出会えるかもしれません。ふるってご参加ください！

日時：11月17日 10時から12時

集合場所：堰堤駐車場

持ち物：雨具、防寒具等

申し込み先：小堀英憲 (Tel 090-6451-0793)

締切日：11月10日



「弥生スキー場跡地の市民観察会及び生物調査と毎木調査」

6月23日に弥生親子観察会が行われました。出席人数は大人14名、小人12名、スタッフ15名(考える会7名、公園緑地課5名、弥生ネット3名)の総勢41名です。

小学生は長靴、虫取り籠、虫取り網と準備万端で「弥生の森生きものさがし」のパンフレットを首にかけてもらいました。公園緑地課の課長さんの挨拶の後、注意事項を聞いて10時10分出発です。



コースは昨年と同じで、キャンプ場の中に入ります。芝生の中で、背の低い植物を見つけました。マメ科植物のミヤコグサで黄色の花を咲かせていました。お日様が大好きな植物で、小さいさやもできていました。どうしたらこのさやができたか、おしべめしべを探すために皆で花びらを一枚一枚はがしてみました。子どもの手先はとても器用で、長いおしべを見ることが出来ました。その後、沢でニホンザリガニを探します。下見では見つけることが出来ず不安でしたが、私も見つけることが出来ました。子どもも見つけました。持ち帰りはできないと話しました。ニホンザリガニはこの沢で子育てをし、この沢で一生涯を送ります。子どもたちに持ち帰らせない意味が理解できたか不安です。皆でこの環境を守っていききたいものです。来年も元気な姿のニホンザリガニに会うために。

その後森へ入りました。地面に落ちている緑色のオトシブミを見つけた子どもがいました。さっそく中を解くと、一個の黄色い小さな卵が入っていました。この中で幼虫になってどの段階で巻いた葉から出てくるのでしょうか。知りたいものです。山のごちそうのクワの実を食べながら、パンフレットの9個の生き物をチェックしたら、気温も高く、もうお昼で皆腹ペコです。途中で捕まえたハムシ等の名前を聞く時間が持てなかったことが残念でした。



も神妙な手つきで、羽を広げたり、針を刺したりして完成しました。この時間は貴重な体験だったようです。

解散時、スタッフが子どもに感想を聞いたら、自主的に前に出てきてくれた子は「大きなヤマナメクジを見つけたよ。ヤマグワは酸っぱかったよ。今は腹ぺこです。」と答えてくれました。

建物の横で、弥生ネットの方々が作ってくれたおいしい、おいしい豚汁をいただきました。いつもありがとうございます。

食事後に蝶々や虫の標本の作り方を阿部東先生ご夫妻が指導してくれました。参加したのは2家族の6名でした。お父さん方も子ども

石戸谷芳子 記

毎年観察会と並行して、弥生跡地の自然の調査を行っているのも恒例の取り組みです。今年も樹木の成長の度合いを測る「毎木調査」、どんな植物が分布しているかを調べる「植物調査」、野鳥の生息状況を調べる「野鳥調査」、そして昆虫や小動物を調べる「生物調査」を実施しました。樹木の成長では、1年間で平均して2.2cm大きくなっていることが判りました。また、野鳥調査ではこれまで62種類の野鳥を確認していましたが、新たに「キバシリ」「コムドリ」「メボソムシクイ」の3種を確認。確認された種数は65となりました。調査結果は、弘前市にも提供しています。

竹浪 純 記

「ゴマシジミを守ろう！」看板を設置する

ここは、湿原に棲む、珍しい蝶、ゴマシジミの少ない生息地です。
私たちは、ススキやヨシを刈り払い、生息環境を維持しています。
ところが近年、蝶の採取者により絶滅寸前です。
採るのではなく、撮る、見る場所としてゴマシジミの保護にご協力下さい。

以上が看板の文面です。

「岩木山を考える会」として、10年余り前より、ゴマシジミの産卵する植物、ナガホノシロワレモコウの生育を阻む、ススキ、ヨシを刈り払いしてきました。また「ゴマシジミの観察会」を継続。人為による蝶の減少への対応として、「看板」設置が出来るように取り組んで来ました。県の自然保護課、弘前市の担当部署を何度も何度も回るという困難さを経て、今年の5月20日、看板設置にたどり着きました。当日は、「岩木山環境保全協議会」より小山様、看板製作にご尽力頂き、看板設置作業をした業者の方お二人、当会の監事3人が立ち会いました。

「ミズバショウ沼公園駐車場」(嶽温泉から湯段温泉へと下る途中にあります。)の大看板に隣り合わせに設置。小さい看板ですが、きれいな解りやすい内容で表面と裏面に表示があります。冬期間は、屋内に移動して風雪からの破損を防ぎます。当日は、道沿いにピンク色の可憐なフデリンドウが咲き誇っていました。

藤原 裕貴子 記

ゴマシジミ生息地の雑草の刈払い

雑草の刈払いを2019年7月10日(水)9:00 ミズバショウ沼駐車場に現地集合し、参加者6名で行いました。私は昨年につき2回目の参加です。

刈払いは、ゴマシジミの食草であるナガホノシロワレモコウの繁殖に支障となっている、背丈ほど伸びたススキ等を昨年同様2台の草刈り機を用いて行いました。

また、今回の刈払いは生長途中の食草の有る箇所はできるだけ刈取らないよう行いました。作業は天候にも恵まれ、順調に進み11時ころには予定していた範囲を参加者全員怪我もなく終えることができました。

追記:8月25日(日)に行われたゴマシジミ観察会に参加しました。刈払い時に残しておいた生長途中のナガホノシロワレモコウは生長し、花が咲いている物、つぼみの物等があり、ゴマシジミが花に留まっているのを見ることができました。

金枝壽孝 記

岩木山講座② ゴマシジミ観察会

不思議な蝶・ゴマシジミ

ゴマシジミは湿原に生えるナガホノシロワレモコウやワレモコウの花穂に産卵します。孵化した幼虫は、ナガホノシロワレモコウの花を食べます。やがて訪れるアリの一種に蜜を与え、アリはゴマシジミの幼虫を自分の巣に運びます。この幼虫は、秋から翌年の7月末まで、アリの巣の中でアリの幼虫を食べて成長し、8月の中旬に蝶となって飛ぶという数奇な生活をする蝶です。

8月25日(日)、参加者9名。うす曇りから、次第に陽も差し、暖かくなると、ゴマシジミは、私たちに「どうぞ、観察して下さいな。」とでも言っているかのように、ナガホノシロワレモコウにゆったりととどまったり、飛び回るなど、これまでにない近い距離での出会いができました。1時間余りの間でしたが、ゴマシジミとの夢のようなゆっくりした時間を過ごせました。

今回は、取材が2件ありました。ラジオ局の「アップルウェーブ」は、駐車場からの生放送10分間。今回の観察会と当会の活動について、小堀会長が対応。もう1件は、「東奥日報」社の若手記者が観察地へ入っての取材です。若いマスコミ関係者が、当会の活動に関心を寄せて下さる事は、今後に活かされることと思います。粘り強く取り組まれてきた、阿部東先生、他の皆様に感謝いたします。取り組みを継続していきたいです。



藤原裕貴子 記

ゴマシジミ観察会に参加して

初参加でした。

ゴマシジミとは何ぞや？ 恥ずかしさも感じない程に何も知らないままに出掛けました。それでも皆さんの説明を聞きながら飛んでいるゴマシジミ、止まっているゴマシジミを観ることができました。絶滅寸前と聞いていたので観れないとも思っていました。“観察”には程遠いただ観ただけの体験でしたが貴重な体験でした。

金枝良子 記

岩木山登山道の調査をしました

以前は、弘前市や県自然保護課、津軽森林管理署の方々と一緒に、岩木山環境保全協議会が音頭を取って登山道調査を行い、要改修箇所をチェックしていたこともあったのですが、各登山道の整備を民間団体にお願いする、という方針を弘前市がとったために、みんなの目でチェックするということがなくなってしまいました。そんなこともあり、今回、当会独自で登山道で危険な箇所がないかどうか、調べることにしました。歩いた登山道は、百沢、弥生、赤倉の3本です。調査は、岩木山スカイラインとリフトを利用して頂上まで登り、各登山道へ降りながら、危険箇所などを調べる、という形をとりました。そのために、岩木スカイライン(株)様のご配慮をいただき、通行を無料にいただきました。この場を借りて御礼申し上げます。

以下、各登山道の状況をお知らせします。

(ア) 百沢登山道:6/17(月) 金枝、竹浪、(小堀)

車を岩木神社に置き、小堀会長の車で岩木スカイライン8合目まで送ってもらう。強風のためリフトは動いておらず、登山道を9合目まで歩いて登る。鳥海山頂の気象庁地震計をチェック。アンテナは傾いていたが壊れた部分は修理されていた。

鳳鳴避難小屋チェック。去年の台風で飛ばされた屋根のトタンは張り直されていたため、雨漏り等はしていなかった。

百沢登山道は種蒔苗代がまだ半分雪に埋もれ、大沢も、種蒔苗代から100mほど下から焼止の少し上までまだ雪渓が厚く残っていたため登山道チェックが出来ず。ただ、危険だと思われる箇所は雪が消えていたので、その部分を撮影してきた。断崖の脇を伝って歩くことになるため、鎖の取り付けなどが必要だ。焼止避難小屋に取り付けられていた看板が剥がれ落ちていた。→市が修理予定とのこと。

(イ) 弥生登山道:7/1(月) 竹浪、(小堀)

車を弥生いこいの広場駐車場に置き、小堀会長の車で岩木スカイライン8合目まで送ってもらう。

山頂は、神社の屋根がはがれていた。またトイレの表のドアの下部が壊れかかっている。直さないと、下がバラバラになる可能性がある。(→修理予定とのこと)

弥生登山道を下山。9合目から8合目に至る耳成岩の下をトラバースする部分は、以前からの崩落部分は規模が拡大していた。また見逃せないのは、特に耳成岩直下の部分が20m程の長さで渡って道にひび割れが入っていたこと。元からあったものか、新たに出来たものかは判らないが、今後の崩落の危険性について専門家からの評価を得ることが必要と思われる。

(→弘大の専門家に評価を依頼し、7/24に現地調査をしていただいたところ、急斜面のため、地盤がずり落ちかかっている、注意看板を立てたらどうかとの助言を得、弘前市に報告。)

8合目「不法伐採」の報道で立入禁止となった迂回路は湿地のそばだが、現時点で湿地が影響を受けているようには思われず、安堵した。

8合目から下の登山道は、7合目から6合目に至る一部で笹のトンネルになる部分があったが登山道自体が笹で覆われているという状況にはなかった。4合目の標識が倒れており、修理が必要。

(ウ) 赤倉登山道:7/9(火) 竹浪、(小堀)

車を赤倉神社前の駐車場に置き、小堀会長の車で岩木スカイライン8合目まで送ってもらう。

9合目の山体をトラバースする部分、9合目から大鳴沢源頭に降りる部分は、足元が見えないほどツツジやカエデの枝が伸び、笹が生い茂っている。刈り払いが必要だ。

大鳴沢源頭部分はまだ残雪に覆われており、ふもとから登ってきた登山者は登山道を見つけるのに難儀すると思われた。少なくとも6月中には登山道の目印をつけておく必要があるのではないか。



26番観音付近の山体崩壊を詳しく撮影するために、赤倉御殿から赤倉キレット方面に下る。登山道対岸から撮影。26番観音付近の山体崩落が少しずつ進んでいる。写真に見えるダケカンバが乗っている岩石が崩れ落ちる時は登山道も一緒に落ちると思われる。危険部分にはトラロープが張られているが、危険の標識はないので、登山者が補助ロープと間違える可能性さえある。早急に危険の表示と迂回路の標識を立てるべきだ。(→弘前市観光課にその旨申し立てたところ、標識を立てることは出来るとのことだった。)



大鳴沢源頭から鬼の土俵に至る部分も、ところどころで足元が見えなくなるほど、植物が伸びてきている。刈り払いが必要だ。

竹浪 純 記

「2019岩木山環境保全協議会」の動き

7月10日(水)に定時総会が開催され、当会から小堀、竹浪が出席しました。事業報告、決算、事業計画、予算案の議事終了後、「新規加入会員について」の議事があり、中南地域県民局林業振興課が新たに会員となりました。登山道等の整備にかかる知識と経験が豊富なので、助言をもらうということで承認されました。その後、当会からの要望事項(次期総会で詳細報告)を提案しました。その場で市より以下の回答がありました。

- ・ 焼止避難小屋のはがれた掲示看板の修理は、地元業者に見積もりを依頼中。
- ・ 入山ポストに投函された入山者のデータは以下の通り。
 - H30年1～12月 572通(H29:590通)トータル人数1455名(1805名)
 - H31年1～6月 122通(H30の1～6月:140通)
- ・ 弥生登山道8合目から9合目に至る部分で20mほどにわたって登山道にひび割れが走っている問題では、7/24に大学の専門家に調査をしてもらうことでの了解を得た。ドローンを飛ばして調査する。
- ・ 赤倉登山道の刈り払い、危険個所の指摘について、赤倉登山道は公園事業としての登山道ではないので許可手続きが必要。これに関して市が現状を確認して登山道の貸付を受けるかどうか検討したいとのこと。貸付を受けるべきだとの意見も会員から出されていた。嶽登山道については6/1付で市が貸付を受けることになったとの報告があった。
- ・ 追子森登山道に入口に標識をつけてほしいとの要望については、一般的な許可申請をしてもらい、各自がつけることになるとのこと。ゴマシジミの立看板の設置と同じ手続きが必要。

その後、会として弘前市に、その他の要望事項についての考え方を聞きたいとの申し入れをし、8/8に小堀会長以下4名で市観光課の担当者と話し合いの機会を持ちました。詳細は次期総会で報告しますが、参加幹事の感想を付しておきます。

(感想1)市の職員は山の知識がないので、専門的な立場からの情報提供などを積極的に行う必

要を感じた。一方、職員が山に登って現場を見るという姿勢が見られなかったのは残念だった。

(感想2) 他人事のような感じで、知らないから覚えようという気がないように思えた。外国人客も来ているのだから、もっと積極的になってもよいのでは。今後、岩木山全体を外国人にも対応した形での整備が必要になって来るのではないか。

竹浪 純 記

* 幹事募集

岩木山を考える会では幹事を募集しています。幹事の活動は総会で決まった年間行事(自然観察会、写真展、会報発送)等を月一回の幹事会で意見を出し合い具体化して、行事の当日は参加者の案内をするのが主です。義務的に感じることなく、都合の良い時ご協力くださるだけで大変助かります。津軽に住む私たちが全国に誇れる岩木山を美しいまま子孫に残すために一緒に頑張りましょう。

連絡先 小堀英憲 Tel.090-6451-0793

※編集後記

収穫の秋を迎えました。我が家のりんご園は今年から全量葉とらず栽培にすることにしました。これまで見た目を良くするためだけに割いていた労力が無くなるということは仕事が楽になるということ以上に精神面に良い影響がある気がします。要はお金のためにやりたくない仕事をしなくて済むということです。

さて、翻って日本の現状を見るにこれから労働人口がますます減っていく中で今まで通りの仕事の仕方では経済も何もかも維持できなくなるのは間違いないでしょう。何が本当にすべきことなのか、何が価値の本質なのかきちんと見極めて効率を考えて仕事をしていかなければならないでしょう。

僕にとってはその答えが葉とらず栽培であり、減農薬栽培であります。また一つ理想の仕事の形に近づけました。

ただ、長期的な視野も同時に必要です。目先の金や効率だけ考えて将来に投資をしてこなかった結果が今の少子高齢化の原因なのですから。りんご栽培に関して言うなら、土壌や周辺環境の維持・改良、お客さんからの信頼を積み重ねていくこと等となるでしょうか？

小倉慎吾 記

会報 「岩木山を考える」第79号(2019年9月26日)発行／岩木山を考える会
会長 小堀英憲 〒036-8131青森県弘前市千年4-12-15／電話0172-87-1910
事務局長 竹浪 純／電話070-6952-2614

郵便振込口座番号 02380-0-37914 振込先:岩木山を考える会